

中 村 正

臨床社会学・家族療法学・社会病理学等が専門です。家庭内暴力、非行・犯罪、ひきこもり等の反社会的・非社会的・脱社会的な逸脱行動に関心があります。人格や心理の問題に還元しないような社会病理的なアプローチを重視しています。さらに、そうした問題群を解決するための臨床実践が重要だと思っていて、社会的な視点からの対人援助の臨床を試みています。たとえば、少年刑務所、児童相談所、児童自立支援施設等で臨床実践をしています。

### 1. 専門演習の目標

関心をもってほしいことは、「心理と人格に帰属されがちな逸脱行動・社会病理について、臨床社会的な視点から解明を行うこと」です。それを可能にする知識領域として、社会病理学、逸脱行動論、臨床社会学・臨床心理学等の基礎的な理解を深めることとします。そして何よりも、社会のなかで生起していることなので、広い関心をもって学ぶことの好きな実践的関心をもつことをめざします。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

現代社会は、虐待、ドメスティック・バイオレンス、不登校、ひきこもり、非行・犯罪、多様なハラスメント等、多様な臨床的課題を抱え、さまざまな援助が試みられています。こうした課題が浮かび上がる社会環境と社会関係の病理が解明される必要があります。臨床社会学は、社会それ自体の病理性を扱うこととなります。臨床的援助を必要とする「問題行動」を単に個人の「逸脱」や「不適応」という課題にのみ還元しない方法として臨床社会学を位置づけ、社会関係に係留しながら問題を把握し、そうした問題を生じさせる社会環境（コミュニティ、家族、学校、産業など）を今とは異なる方へと再構成する実践が求められているといえます。この演習では、クリアな社会分析を可能にするマクロな社会的視野と、援助実践の個別性を見失わない臨床心理的なミクロな視野とが出会う「メゾフィールド」として、具体的な社会病理問題を位置づけていくこととします。

### 3. 授業の進め方・内容

3 回生前期：どうして社会病理学や臨床社会学に関心をもったのかについて、自己理解をもとにして頭を柔らかくするコミュニケーションや思考を行う必要があります。まず、考える、調べる、伝える、動く、協力する等の力を養います。

3 回生後期：どんな社会病理や逸脱行動に関心があるのか、自分の固有の関心をもつことを目標に

します。そのために小グループにわかれて学習と発表を行います。Web-CT を活用して、すべてのゼミ生がすべてのゼミ生とコミュニケーションできるような仕組みをつくり、教室以外での学びも充実させます。臨床社会学基礎形成期です。

4 回生前期&後期：本格的な学習のテーマを確定します。知識領域を深めていくための学習を深めていきます。4 回生後期にかけては卒業研究として成果をまとめていきます。

### 4. 必要とする知識

人間の逸脱行動に関して、どんなことでもいいのでとにかく知りたいと思うどん欲さが重要です。その逸脱行動が決して非人間的なものではなく、人間だからこその行動だと言えるような論理と知識をもつことが必要ですが、2 年間でみっちり指導します。

### 5. 関連する分野・科目・知識

家族社会学、臨床社会学、社会病理学、犯罪学、臨床心理学などです。

### 6. テキスト・参考書・機材(受講生が標準的に持つもの)

『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』（中村正著、作品社）、『対人援助学キーワード』（中村正ほか編、晃洋書店）、『対人援助学の可能性』（中村正ほか編、福村出版）

### 7. 独自に付加する選考方法

特になし。

### 8. 受講生に望むこと

話しをするのが好きな社交的な人、何かを徹底して調べる思索的な人、センスで生きている芸術的な人、とにかく多様な人が集まるようにしたいと思っています。